



# れんげ畑

鴻巣市立鴻巣中央小学校  
令和元年12月号

学校教育目標  
キャッチフレーズ  
ホームページ

【知】友と学ぶ子 【徳】心の豊かな子 【体】体をきたえる子  
「はきはき・にこにこ・きびきび」  
<https://kochuo-e-konosu.edumap.jp/>

児童数375人

## 学ばざる者、教えるべからず

校長 清水 励

2学期も残すところあと1か月となりました。2学期にはたくさんの大きな行事があり、保護者・地域の皆様におかれましては、子供たちへの温かな見守りと励ましの言葉がけ、行事運営にあたっての御支援と御協力をいただき、深く感謝申し上げます。誠に、ありがとうございました。

さて、過日、鴻巣市PTA連合会「研究大会・家庭教育学級」に参加してまいりました。当日は、鴻巣市御出身の東京成徳大学教授 石崎一記 先生の御講演を拝聴しました。テーマは「子どものために親が学ぶべきこと」。石崎先生には、会議で数回御一緒させていただいたことがあり、石崎先生の全体を見据えながらも様々な立場の個を大切にされる考え方や、冷静でありながら温かなお人柄がにじみ出る言動に、「とても魅力的な方だな。」という印象をもっていたので、御講演でお話を伺えること、とても楽しみにしておりました。

当日の御講演では、期待どおり多くのことを学ばせていただきました。お話しいただいた中で、何点か御紹介したいと思います。私の理解の至らないところや、間違った受け止めをしていた場合は、御容赦ください。（**網掛け太字ゴシック体部分**は、当日の資料からの抜粋）

### □なぜ勉強をするのか

私たちも子供の頃に思っていた疑問ではないでしょうか？「なんで勉強しなきゃならないんだろ…」。大人になり社会に出ると、この問いのそれなりの答えは見つけれられますが、子供の時に「そうか、だから勉強するんだ！」と心から納得できる答えを見つけることは難しく、その答えを大人から聞いても「へえ、そうなんだ…」くらいにしか思えない難しい問いです。石崎先生からは、『勉強してできること、分かることを増やした方が、多くの場面で、多くの人を、より幸せにできるから。また、そう思った時に、学ぶ力をつけておくため。』というお話がありました。「仕事は人を幸せにするために行うこと」という仕事の在り方にも振り返られました。

### □子供から目や心を離さない

『乳児期には肌を離さない。幼児期には手を離さない。児童期は目を離さない。青年期には心を離さない。』子供の思いや考えを尊重することと、子供にすべきことを示すこと（時には厳しく）は相反することではありません。子供に心から寄り添い、子育てに悩むことを通して、親は親として育っていくのではないのでしょうか。多分、はじめから「父親」「母親」の人はいないと思います。反抗期に、親は煙たがられますが、子は親を嫌いになるわけではありません。

### □不安を力に変える強さを

『社会全体が不安を悪いものとして排除する傾向にある。不安を力に変えることで得られる強さを付けること。』子供たちの生活の中に、不安や心配事はあって当たり前。ただし、子供たちの心が折れすぎたり、健康を害したりするほどの不安は、大人が取り除く（軽減する）必要があります。でも、大人が先回りしすぎることは、子供たちの大切な学ぶ機会を奪ってしまうことにつながることもあるようです。実のところ、大人が自分自身の不安に耐えきれないことも背景にあるように思います。特に、「人間関係＝他者とのつき合い方」は、人間としての社会性を身に付ける上でも、また、自分の個性を伸ばすためにも、子供の時に失敗をしながら学びはじめ、大人になっても永遠に学び続ける（ゴールの無い）ものなのではないのでしょうか。